

国語科学習指導案

日時 平成18年1月24日(火) 5校時

児童 第1学年 3名

(男子2名 女子1名)

指導者

- 1 単元名 「本の せかいを たのしもう」
学習材名 「うみへの ながいたび」

2 単元について

この単元は、「どくしょのひろば」と物語教材によって構成されている。物語教材において、物語のおもしろさを感じ取り、そこから発展して日常の読書に広げていくことが通常の単元構成であるが、この単元は、構成を逆にし、物語教材の内容にかかわりなく、広く自由に読書に親しみ、この読書を楽しんだ経験から、物語教材に対しても「読んでみよう」という意欲を高めることができる。さらに、読書体験が、物語教材の読み取りにも生きることを考える。そこで、本単元では、読書を楽しむことに重点を置いて、取り組んでいきたい。

3 学習材について

この前の学習材である、「おはなしどうぶつえんをつくろう」では、さまざまな、動物が出てくる本に触れ、読んだ本を紹介カードに書き、友だちに紹介することを学習する。1年生にとっては動物の登場する本は、親しみやすい。また、自分の読んだ本を誰かに伝える事は、子どもたちにとって楽しい学習である。その意欲や興味を生かしながら、動物が主人公である教材の「うみへのながいたび」を読むことで、想像を広げながら、読書を親しむことをねらいとしている。この作品は、白くまの兄弟の成長とそれを見守り育てる母ぐまの愛情をドキュメンタリータッチで描いた作品である。写真を手がかりに、子どもたちが想像力を働かせ、イメージを豊かに膨らませて、物語を楽しむことを目指したい。

4 研究主題・視点との関わり

○視点1：「表現活動を支える土台作り」

- ・新出漢字や語句の意味を丁寧に理解していくことで、書かれている言葉から、場面の様子を読み取ったり、登場人物の気持ちを考えることができるようにする。
- ・音読カードを利用し、音読の練習を徹底する。
- ・読み取りを深めるために、ワークシートを活用する。

○視点2：意欲的に取り組む授業づくり

- ・写真や挿し絵などを多く活用し、子どもたちが想像を広げながら読むことができよう工夫する。
- ・発問や課題設定を工夫し、児童が何を学ぶのかを理解し、主体的に課題に関わっていくことができるようにする。

○視点3：表現活動を促す環境作り

- ・一人一人の発言を大切に、友だちの意見を聞きあえるような雰囲気作りに努める。
- ・小集団での話し合いを通して、自分の考えに自信を持ち、楽しく表現できるようにする。

5 児童の実態

3名とも興味・関心が強く、新しいことにも、どんどんチャレンジする積極性をもっている。大きな行事を通して、心も体も成長し、自分の自信が次へのステップとなって、様々な事に生かされている。しかし、集中力の欠ける児童や、話を聞いているものの、きちんと理解できない児童がいる。1つの指示に対しては理解できるが、指示が2つ以上になると、後の方の指示しか通らないことが多い。また、つまずきに対して、戸惑ってしまう児童もいて、1つつまずくと、なかなか気持ち切り替えることができない。

国語に関しては、1学期から継続してきた音読カードの活用が効果が出始め、ひらがなをだいぶスラスラと読むことができるようになった。言葉を丁寧にたどっていくことで、書かれている内容を、大体は理解できるようになってきた。また、毎時間、始めに漢字のミニテストをおこなっているので、漢字もだいぶ定着してきた。

「読むこと」に抵抗はないものの、じっくり内容を追って読み進めていくことが苦手である。書かれていることばから、想像を膨らませながら読むことを課題としたい。

6 単元・学習材の目標

○易しい読み物に興味をもって、読むことができる。

●場面の様子などについて、想像を広げ、楽しみながらお話しを読むことができる。

7 評価について

【関心・意欲・態度】

●写真と文章を結びつけて読もうとしている。

【書く能力】

●写真と文章を結びつけて書いている。

【読む能力】

●場面の様子や情景を想像しながら読むことができる。

●白くまの兄弟や母ぐまの気持ちとその変化を想像しながら読んでいる。

【言語についての知識・理解・技能】

●言葉の意味を理解している。

●新しい漢字を読み書きできる。

●文末が常体であることに気づいている。

8 指導計画

時	学 習 活 動	評 価 規 準
1 2	<ul style="list-style-type: none">『うみへのながいたび』を通読し、初発の感想をもつ。新出漢字・読み替え漢字を学習する。ビデオを見て、白くまに対するイメージを持つ。	<ul style="list-style-type: none">1つ1つのことばを、はっきりと読むことができる。初発の感想を持ち、物語の展開に興味を持つことができる。筆順や字形に注意して読み書きができる。文末が常体であることに気づく事ができる。

3	・ 1・2・3の場面を読み、白くまの兄弟の成長ぶりや母ぐまの気持ちを考える。	・ 場面の様子や、白くま兄弟の成長ぶりを読み取ることができる。 ・ 母ぐまの気持ちを考えることができる。
4 (本時)	・ 4の場面を読み、北の海にむかう、白くま親子の気持ちを考える。	・ 場面の様子を読み取り、白くま親子の気持ちを考えることができる。
5	・ 5の場面を読み、白くま兄弟に対する母ぐまの気持ちを考える。	・ 場面の様子を読み取り、母ぐまの白くま兄弟に対する気持ちを考えることができる。
6	・ 6・7の場面を読み、海に着き、さらに成長した白くま兄弟の様子を読み取る。	・ 海に着いた母ぐまと白くま兄弟の気持ちを考えることができる。 ・ 大きく成長した白くま兄弟の様子を読み取ることができる。
7	・ 母ぐまや白くま兄弟に手紙を書く。	・ 大きく成長した白くま兄弟や母ぐまのその後を想像しながら、手紙を書くことができる。

9 本時案

(1) 目標

4の場面を読み、北の海へ向かう、白くま親子の気持ちを考える。

○場面の様子からや白くま兄弟や母ぐまの気持ちを、進んで考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

○母ぐまと白くま兄弟の気持ちを想像しながら、読むことができる。

【読むこと】

(2) 本時の展開 (4/6)

	◎学習活動 ◆教師の支援	評価
	◎漢字のミニテストを行う。 ◆黒板に問題を出し、漢字練習ノートに答えを書かせる。 ◎答え合わせをして、間違った漢字を確認する。 ◆間違った漢字を指書きさせる。	・ 新しい漢字の読み書きができる。 【言語についての知識・理解】
つかむ	◎前時の学習を振り返る。 ◆板書をもとに、白くま親子が旅立つ理由などを確認させる。 ◎4の場面を音読する。 ◆各自の音読の後、1文ずつリレー形式で音読をさせる。	・ 前時の学習の内容を思い出すことができる。 【関心・意欲・態度】 ・ 大きくはっきりとした声で、音読をすることができる。【読むこと】

	<p>◎課題把握 ◆学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> きたの うみへ むかう 白くまおやこの きもちをかんがえよう </div>	
かんがえる	<p>◎P34・35の写真を見て気がついたことを発表する。 ◆白くま兄弟と母ぐまの様子と、周りの様子について分けて板書する。 ◆写真や書かれている事柄を参考にさせる。</p>	<p>・白くま兄弟や母ぐまの様子や、周りの様子について、写真や文章などをもとにして、見つけることができる。【読むこと】</p>
ふかめる	<p>◎白くまの親子の会話をワークシートに吹き出しの形で書く。 ◆写真と同じようなワークシートを用意する。 ◆板書を参考に親子の会話を想像させる。 ◆会話考えられない児童がいるようであれば、教科書にある母ぐまのことばから、それに応える白くま兄弟の気持ちを考えさせる。</p>	<p>・母ぐまと白くま兄弟の気持ちを想像することができる。【読むこと】 ・母ぐまと白くま兄弟の気持ちを進んで考えようとしている。【関心・意欲・態度】</p>
	<p>◎ワークシートを発表する。 ◆書く時間を十分にとってから、発表させる。 ◆ぬいぐるみを使って、動作化しながら発表させる。</p> <p>◎白くまの親子の気持ちを考えながら、4の場面を音読する。 ◆ワークシートでそれぞれが考えた会話の良さを振り返りながら、音読をさせる。</p>	<p>・写真や文章から結びつけて、母ぐまと白くま兄弟の気持ちを書くことができる。【書くこと】 (ワークシート) ・白くま親子の気持ちになって発表することができる。【読むこと】 ・母ぐまと白くま兄弟の気持ちを想像しながら、読むことができる。【読むこと】</p>

(3) 本時の評価

4の場面を読み、北の海へ向かう、白くま親子の気持ちを考えることができたか。

○場面の様子からや白くま兄弟や母ぐまの気持ちを、進んで考えようとしていたか。【関心・意欲・態度】

○母ぐまと白くま兄弟の気持ちを想像しながら、読むことができたか。【読むこと】